

市教委だより

第2回 「中村の教育を考える会」「あゆ・とんぼ・ふじの会」が開催されました

本年度第2回目の会が、昨年12月2日(火)、合同で開催されました。

開会にあたり教育長より、“開かれた学校づくりの背景にあるもの”として、情報の多元化・大量化によって多様化する子どもの興味・関心・願いや保護者の価値観に学校だけでは対応しきれなくなっている状況や、学校からの積極的な情報発信や説明責任について、また学校経営に地域住民の力を借りる発想が必要ではないかということ提起し、協議に移りました。

まず、市教委事務局から、先月号でもお知らせしました中村市の学力定着状況についての説明を行い、質疑応答・意見交換を行いました。

委員の方々からは、CRT検査結果の分析を受けての各学校での取り組み状況や、授業形式などについての質問や、地域の方々に学校に招いて講師として協力していただいている事例、学習発表会への地域の方々の参加の様子など、積極的な意見交換が行われました。

朝読書や少人数指導・チームティーチングなど、学校の取り組みはよくわかるが、その結果子どもたちがどのように伸びているか、どんな課題があるかなどについての情報提供が不十分であり、積極的に学校の情報を発信して欲しいという意見もだされ、学校評価制度や地域住民の参画とともに、これからの教育行政や学校経営について活発な意見がだされました。

「中村の教育を考える会」の会長から、各開かれた学校づくり推進委員会で、これからの活動について議論を深め、活力ある連携や取り組みの質の向上を図っていくという旨の挨拶をいただき、会を終了しました。



「中村の教育を考える会」

学校・家庭・地域が連携を図り、地域ぐるみで子どもたちの教育を推進するために、設置しています。

「あゆ・とんぼ・ふじの会」

(本年度委員 12人)

市内16地区の開かれた学校づくり推進委員会の代表者で構成され、情報交換を行っています。

教育講演会『今、なぜ家庭・学校・地域の連携なのか』



1月16日(金)に、後川中学校で、校区での開かれた学校づくりや連携のあり方について、土佐山村教育長の森本忠彦氏を講師として、教育講演会が開催されました。

森本氏は、これまでも生涯学習(社会教育)に熱心に取り組まれてきた方で、学校と家庭・地域が一体となって子どもたちを育てるために何をすべきか、ユーモアのあるわかりやすい話をしてくれました。

家庭教育の重要性や地域の中で子どもが育つということ、そのために学校が何をすべきか、また、学校と地域がお互いにメリットを感じられるような活動を、継続していく必要があるなど、これからの連携について示唆に富んだ内容のものでした。

質問・ご意見をお寄せください。 問い合わせ先(市)教育委員会学校教育課 (34)5445

青年国際交流事業に参加してみませんか

平成16年度に内閣府が実施する国際交流事業(「国際青年育成交流」「日中、日韓青年親善交流」「世界青年の船」「東南アジア青年の船」)の参加青年の高知県募集を行います。

募集期間 平成16年3月1日(月)~31日(水)

選考日 平成16年4月8日(木)

問い合わせ先 内閣府 03(3581)1181 高知県国際交流課 088(823)9605